

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101219
法人名	R i g h t-H a n d株式会社
事業所名	認知症の人と暮らす家 五福
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿9丁目11番22号 099-264-5291
自己評価作成日	平成28年 1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

五福の理念「長寿、健康、徳、財、天命」を基に、入居者が五福でも自宅の暮らしに近い普通の暮らしを続けられる様に職員はキャストとなり、黒子となり、入居者が生きがいの持てる生活が送れるように、心のこもったケアに取り組んでいます。五福内にはカフェがあり、ご家族が来られた際は居室とはまた違った雰囲気できつろげます。開設から2年目に入りましたが、常に自分達に今何が出来るかを個で考え、チームで考え、実践しています。入居者だけでなく、地域やご家族にも信頼され、頼りがいのある五福になるように、キャスト全員で取り組んで参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは小学校や商店の多い静かな住宅街に建てられ、手入れされた庭には多くの植木や果樹が見られ散策や日光浴に適した環境である。天候の良い日には庭のテーブルやテラスで、利用者と職員がお茶や会話を楽しむことができる。利用者が主体的に日常の炊事・洗濯・掃除などを行えることに重点を置き、職員が連携して家庭と同じ雰囲気過ごせるように日々のケアに取り組んでいる。

○ホームは開設後1年余りであるが、町内会に加入して、案内される清掃活動や夏祭り・運動会・敬老会・文化祭・餅つきなど、多くの行事に参加し、日常的に散歩や買い物で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。今後は地域の公民館を利用して福祉に関する講習会を企画する予定もあり、積極的に地域に働きかけている。

○運営推進会議やご家族へのお便りは、利用者の暮らしぶりや様々な行事への参加の様子などを、動画や写真を活用して非常にわかりやすく報告して、多くの意見や提案を頂けるように工夫している。また、ケアプランやケース記録、利用者に関する申し送りや受診の記録などは、様式を記入しやすく見やすいように工夫し、パソコンを活用して全職員が共通の認識が持てる仕組みを築いている。

○食事の献立や日々のレクリエーションをはじめ利用者の外出先の希望など、声かけにも工夫しながら、常に利用者の気持ちをくみ取ることに職員は連携して取り組んでおり、ご家族とも十分に話し合っ適切な支援となるように努力を重ねている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「五福」という考えのもと、「普通に暮らす」という理念を掲げ、チーム全員で共有し、入居者の日々の暮らしを支援する中で実践している。	ホームの理念に沿って、利用者がこれまでの家庭の暮らしと同じように過ごせるように、利用者ご家族に寄り添うケアの実現を目指して日々取り組んでいる。利用者の入所当日や新入職員の入職日には理念の説明を行うほか、毎日の申し送りやケアの中、月1回の職員カンファレンス等を通じて理念の意義の理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域で開催される行事に参加し、交流を深めている。日常的には、近隣のお店での買い物やお米の配達、また、美容室の利用などで、地域とのつながりを持つようにしている。	町内会に加入して、清掃活動や夏祭り・運動会・敬老会・文化祭・餅つきなど、多くの行事に参加し、日常的に散歩や買い物で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。また、ホームの開設時には認知症サポーター養成講座を開き、今後も地域の公民館を利用して福祉に関する講習会を企画する予定もあり、積極的に地域に働きかけている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々に理解して頂くために、オープン時に認知症サポーター養成講座を実施した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、五福での取り組みや現況を、写真や作成したDVDをお見せしながら報告している。意見交換を行いながら、サービスの向上に努めている。	会議は、利用者や家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センターの職員等関係者が参加して定期的に開催されている。利用者及びホームの現況報告や地域行事への参加状況・事故・苦情などの報告に加え、問題点等について意見交換が行われ、内容を職員で共有して具体的に日々のサービス向上に役立てている。会議に合わせて避難訓練を実施する際には、自治会長や民生委員にも参加して頂き意見や提案も得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	待機者アンケートや補助金調査、事故報告など、メールや電話での連絡を行っている。	介護相談員の受け入れを行い、メールや電話のほか、市担当窓口や包括支援センターなどへ事務手続きやその他の機会に訪問して、事故や待機者アンケート結果の報告、認定手続きや苦情内容等の相談などを行い、意見や提案を頂くなどの連携を図り、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠は、夜間のみ行い、それ以外は行っていない。身体拘束については、委員会を設置している。職員全員が拘束しないケアについて理解し、入居者がこれまでの暮らしの継続が出来るように、取り組んでいる	職員は連携を図りながら「見守り強化」の徹底に努めている。特に言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけ・行動制限の防止には、日々のケアの中や委員会を中心にした勉強会で繰り返し話し合い理解を深めると共に、安全確保やその人らしい暮らしを支援するケアへの反映が図られている。また、利用者が外出しそうな様子を察知した時には、職員間で十分な見守りを行ない、時に散歩に付き添うなど利用者個人の気持ちに配慮した対応を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者へのケアの仕方については、カンファで話し合い、検討し、虐待を行わないようにキャスト同士で些細な事も話し合い、ストレスがたまらないように、コミュニケーションをこまめにとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている方がいるので、制度の概要について情報収集をしたり、成年後見人と密にやり取りをし、連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、五福の考え方や取り組みをお話しした上で、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、理解、納得した上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会にいらした時は、意見や要望を頂いている。また、キャストや管理者だけでなく、代表者へも直接ご家族からの要望を伝えられる旨を説明し、実際行っている。	ご家族の意見や要望等は運営推進会議での意見交換のほか、面会時やホームの行事の際の対話、メールや電話を通じて把握を図ると共に、利用者の思いや意見は、日常の会話や所作の見守りなどで把握・対応するように努めている。意見や苦情については職員が共有し、必要な対応はその都度話し合い、ご家族にも速やかにメールや電話で報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者はキャストが相談をしやすい様、対面での相談又はメールを使用した相談を受け付けている。また、面談を定期的に行い意見を聞く機会を設け、反映に努めている。	管理者は、日常の申し送りやケアの中で、また、毎月のカンファレンス時に職員の意見や提案を聞き取ると共に、頻繁に声掛けを行い、必要に応じてメールや個別面談の場も設けて話しやすい雰囲気作りに努めている。得られた意見や提案を、具体的に業務や職場環境の改善、サービス向上につなげるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に面談を行い、個々人の状況の把握と反映に努めている。また、様々な資格に対して手当として反映し、向上心の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンス時に施設内での勉強会を行ったり、積極的に外部の研修に参加を促している。また、研修後には報告書を作成し他キャストも閲覧し情報を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外の実施設への研修に参加し、キャストの意識・技術の向上、ネットワークづくりなど、環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった際には、ご本人に面会して話をお聞きし、本人の嗜好や歴史の把握に努めている。入居されてからは、心身の状態や現在の想いを話していただけるような声かけや雰囲気を作り、本人の想いを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談と見学に訪問されたとき、ご家族の想いや状況、不安などを聴くようにしている。カフェスペースを利用しリラックスした状況でお話を伺うよう努めている。入居後1週間は、重点的に状態報告を行い、家族の不安への対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の意向を聞き、思いや状況などを確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。特に入居後1週間は、重点的に連絡相談を行い、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様と相談しながら物事をすすめるように心掛けている。（料理の方法や行事の風習など）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やお出かけの際には出来るだけご家族に支援して頂いている。誕生日や敬老会など、まずは入居者がどうご家族と過ごされていたかを確認し、そこの継続を提案支援している。その後、参加の呼びかけを行っている。また、ご本人の状態や気がかりなことなどはすぐにご家族と連絡を取るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族への聞き取りをもとに、昔行っていた朝市や温泉に行ったり、馴染みの方に季節の手紙を書いて頂く機会を設け、関係継続に努めている。	入所時にご家族や利用者に、生活歴や環境などを聞き取り入所前シートに記録、また、ご家族の面会時の対話からも把握に努め支援に活かしている。ご家族や知人の来所時には、喫茶スペースや居室でゆったりと過ごせるように配慮している。電話や手紙の取次ぎのほか、馴染みの商店や美容室・朝市や温泉などにも同行している。	
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大切にし、一人一人が孤立しないように食事やお茶の時間は職員も同席してコミュニケーションを促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる入居者や家族に対しては継続的に関わりを持つようにし相談などに応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの会話の中で、言葉の表現に隠れた思いを聞き、本人の意思に沿えるよう家族にも支援して頂けるよう努めている。	利用者の見守りや日常会話を通じて思いや気持ちを可能な限りくみ取るように努め、申し送りやきめ細かく記録したパソコンデータで共有を図っている。ご家族とも電話やメールで連携を図り、本人の暮らしに何が最良かを管理者と職員が十分に意見交換して対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に面談をし本人や家族に生活歴をお聞きする。日常会話の中でも情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表や経過記録を通して入居者の生活リズムを理解する様にし、職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様と家族の意向を聞き、その意向に沿った介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族からの意向や希望を聞き取り、主治医や看護師からの情報をはじめ、利用者の変化の都度職員が記録する観察結果や意見・アイデアなどのメモ書き、職員との意見交換等を反映させて作成している。ケアの経過はパソコンの申し送り欄やケース記録に詳しく記述され、それを基に介護計画の見直し修正がタイムリーに行われている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子やケアの実践は経過記録に留め、職員間で情報を共有にしながら、日々、都度、ケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員もその時々変わるニーズに応えられる様に、勤務人数や勤務日や勤務時間を変更したり、柔軟に対応し、支援やサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の加入や医療機関の連携を保ち、何かあれば相談し健康に暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人の係りつけ医を基本とし、協力機関の病院へ繋がられる様連携を図ると共に、希望があれば往診も支援する。	利用者個々の利用前の受診の経過を把握し、本人・家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。受診はご家族同伴が基本であるが、必要時はホームで支援し、医師や家族との意見交換は十分に行われている。また、週1回は訪問看護師の来訪もあり、これらの受診の記録はパソコンの申し込み欄に詳しく記載し、職員が共有できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師が来て入居者の情報を伝え、適切な受診や看護を受けれるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前はもちろん、入院中も病院関係者と情報交換を行ない、退院後のケアをどのように行えば良いか相談し、今後の対応に役立てている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在、重度化や終末期の入居者様はいないが、看取りを行う方針は家族に伝え、ご家族が不安に思っている事を聞く場を設け、関係医療機関との連絡が取れるように連携を取っている。	重度化や終末期のケアについては、入居時に「重度化や看取りに関する指針」を基に、本人やご家族に十分に説明して同意を得ている。また、実際に重度化した時に再度詳しく説明して意向を確認し、希望に沿った対応の支援を家族、医師と連携して行う体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応シートを作成中。避難訓練時に応急処置の方法とAED取り扱い方法の研修を実施。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防隊員と共に、町内会長などにも参加してもらい、避難訓練を行い、夜間を想定した避難訓練も行っている。全職員が避難時の対処法を身に付けている。	運営推進会議を利用して消防署、民生委員や町内会長の参加のもと、定期的に夜間も含む火災や地震を想定した避難訓練や消火訓練、通報訓練を実施している。災害時に備えたスプリンクラーや自動通報装置等も設置されている。訓練時の消防署職員によるAEDの使い方講習や講話のほか、カンファレンス時には緊急時対応の研修も行われ職員の理解を深めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に関する事は他の入居者が居ない所で行っている。トイレや浴室、居室のドアなど、プライバシーに配慮し、また、その人にふさわしい声掛け（内容、声量、トーンなど）をするように気をつけている。	居室への入室、排泄時・入浴時等の支援に際して、利用者の誇りやプライバシー確保への声かけや対応を、全職員が繰り返し話し合い確認している。利用開始時の聞き取り情報とともに、日常の会話や見守りは細やかに、利用者の人格や感性を大切にして利用者の気持ちに沿った対応となるように努めている。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩などは出来るだけ、入居者の希望に沿って行動出来るようにしているが、職員の勤務状況により困難な場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を決めて何かしてもらうのではなく、入居者の暮らしのリズムを尊重し、やりたい事を出るだけやりたい時に出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着るものは入居者が自ら選ばれ、職員が介入する際はどれを着たいか聞きながら入居者と一緒に選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは各入居者が出来る事をしてもらい、一緒に食事を作っている。食事後は、入居者が片付けをしたり、一緒に片付けをしたりしている。	利用者に、買い物や野菜の下ごしらえ・調理・準備や後片づけなど、できることは主体となっていて行ってもらい、会話しながら和やかに食事できるように工夫している。また、毎日の手作りおやつのほか、季節の行事食や敬老会・クリスマス会・誕生会等の食事、花見の際の手作り弁当などで利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量を記録し職員が情報共有している。個々の食べる量、嚥下・咀嚼状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや確認を行ない清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診や、歯科往診で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時の不安やプライバシーに配慮した声掛けやフォローで自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや尿取りパット着用であっても、排泄記録等を利用して排泄サイクルに合わせたトイレ誘導を行っている。	ご家族からの聞き取り情報や利用者の見守り、排泄チェック表の活用などで排泄を適切に支援している。本人の羞恥心や不安を軽減できるように声かけや誘導のタイミングに配慮するとともに、可能な限りトイレで排泄できるように、また、個人の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように、一連の工夫をケアプランに反映している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに排泄記録を付けており、状態確認をして病院や看護師への相談をして対策をしている。個々の状態に応じて服薬や水分補給を増やす、ヤクルトを毎日飲む等行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間や曜日に囚われずに、希望に合わせて入浴できるようにしている。仲の良い方との入浴や時には職員も一緒に入浴したり支援している。	利用者の健康状態に配慮し状態によっては清拭への変更も含めて、週3日の入浴を基本としている。時間帯や好みについては利用者の希望をくみ、入浴剤の活用や仲の良い人との入浴を楽しめるような支援に努めている。1階の浴室は庭を眺めながら、温泉気分や季節を感じられるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠状態に応じて休息したり、好きな時間に就寝出来るようにしている。畳スペースの活用や寝付けない時にはお茶を飲んだり、談笑する等工夫し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルにて薬情を管理・把握し、薬に変更があった際には必ず申し送りを行っている。医師、薬剤師、看護師へ相談し連携を取りながら支援している。巡視や状態確認も留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの以前の暮らしや習慣を把握し、可能な限り本人様の生活を大切にしている。洗濯・掃除・料理等も得意な分野で役割を担って頂き、たくさんの方がチャレンジ出来るよう声掛けや環境作りをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人様の希望の日時や場所、目的に沿って外出できるようにしている。また、帰省や外出等の家族で過ごす時間も大切にできるよう勧めている。	日常会話を通じて利用者の希望把握に努め、地域の行事やイベント、季節の花見、朝市、温泉、居酒屋や外食など、可能な限り様々な場所に同行している。日常的には、散歩や買物・美容室・ドライブ・墓参り等、外出が楽しみになるように積極的に支援している。また、ご家族と一緒に外食や自宅での外泊なども勧めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様、ご家族様と管理方法について話し合い、必要に応じて管理支援をしている。買い物や外出の際は本人様の希望に沿って使用、支払いできるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎年年賀状等作成し、手書きメッセージを添えたり、日常の風景や暮らしぶりを写真に収めている。本人や家族の要望に応じて、携帯電話も利用してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気象情報等に注意し適切な温度管理に努め、庭先に咲いている草花を採取し玄関やテーブルに飾り華やかな雰囲気作りをしている。また日々の清掃に注意し清潔感を保つ様心がけている。	季節の花が飾られた広いリビングは木調の落ち着いた雰囲気、畳のスペースやソファも配置され、空調や清潔にも十分に配慮されている。ご家族や知人・友人の来訪時にも活用できる広い喫茶スペースのほか、多くの種類の樹木がある手入れされた庭に面したテラスやガーデンテーブルもあり、利用者は思い思いの場所でくつろげるように工夫されている。また、1階の浴室は温泉風の本造で、庭を眺めながら季節を感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや、ソファ、畳スペースやカフェスペース、庭のガーデンテーブルなど、独りや、他入居者同士など、様々な空間・居場所を確保している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者家族に話し合いやアンケートなど生活習慣を調査し家具の配置や、お気に入りの写真や道具などを置き寂しくならないように配慮されている。また、馴染みの家具を持参してもらっている。	壁や床は落ち着いた仕上げの居室で、ホームが準備したものはエアコンだけである。利用者のご家族には、馴染みの人形・写真・日用品などを自由に持ち込んでもらい、日常が家庭と同じように本人のペースで居心地よく過ごせるように形作られている。ベッドや家具の配置も本人やご家族の希望に沿うように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームエレベーターの設置やバリアフリーの床、各廊下階段に低く手の届く手すりの取り付けはちろん、キッチンの配置や、中階段の利用など、自宅での自立した生活に近いづくりとなっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「五福」という考えのもと、「普通に暮らす」という理念を掲げ、チーム全員で共有し、入居者の日々の暮らしを支援する中で実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物や近所の散歩など日常的に行っている。又、町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の場での、認知症の理解や事例報告など行っている。開設時に、認知症サポーター養成講座を実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。その中で、取り組み状況、事例や事故・苦情等の報告をしている。委員からの意見をサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	鹿児島市からの介護相談員の受け入れ入居者さんの希望や意見を反映させている。又、事故報告に限らず、苦情内容などの相談もしており、協力関係を築く取り組みをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心となって、身体拘束禁止と身体拘束の具体的な行為に関して正しい理解ができるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者さんへの声かけやケアについてカンファレンスで振り返りの機会を設けている。日常的にも、互いのケアについて振り返ることに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な学びの機会を持っていないが、成年後見制度を利用されている入居者さんがおり、担当の司法書士の方と定期的に報告相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の相談の段階から、五福の取り組みや考えを説明している。その上で、入居に至った際は、入居契約書、重要事項説明書について納得頂けるよう十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱は設置していないが、ご家族が面会の際にはキャストだけでなく代表者も関わり意見や要望を尋ねている。又、運営推進会議においても入居者さんやご家族にも参加頂き意見交換し運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるカンファレンスでの話し合いやメールでのやり取りを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が学習する意欲をもって働ける様、様々な資格に対して手当として反映している。また、安心して働けるよう定期的に個人面談を行いながら、よりよい職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修への参加の機会を作り、積極的にバックアップを行なっている。また、県外の他事業所への研修も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外の他施設への研修や県外での勉強会への参加を行ない、キャストの意識・技術の向上、ネットワークづくりの環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関するご相談があった際に、ご本人様にお会いして話をお聞きしたり、入居されてからは、声掛けや関わりに努め、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談と見学に訪問された際に、ご家族からのお話を聴くようにしている。また、面会時や電話等で話す機会を持ち、意見交換を行っている。特に入居時1週間は、重点的に状態報告を行って、初期関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の意向を聞き、思いや状況などを確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。特に入居後1週間は、重点的に連絡相談を行い、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様と相談しながら物事をすすめるように心掛けている。（料理の方法や行事の風習など）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のご様子をメールや電話でお話したり、面会や行事等への参加を呼び掛け、交流を深め、連携しながら共に本人を支え合う関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて、馴染みの人に電話をかけたり、馴染みの場所に外出ができるように支援している。		
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、一緒に生活する仲間として受け入れ支え合うような環境づくりに努めている。そのとき時の入居者の状況を把握してご入居者同士の関わり方について、間に入ったり、間を取ってつないだり、常に工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時から退所時の本人、ご家族様への不安の解消も含め必要に応じたフォローを適切に行っている。医療機関・次の事業所・ご家族様とも密に連携を行っている。契約終了時前後に関して、相談援助を行うように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者の意向・希望については常に日常生活の中で直接本人様に聞いて把握するように努めている。困難な場合は、簡単な会話の中で察し感じとるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前シートによる情報及びご家族様ご入居者様からの情報をもとに生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活、心身状態の変化の気づきを記録に残し状態の変化をキャスト間で把握することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望、主治医、看護師を始めとした関係者からの情報を基にキャスト全員で意見交換を行ないアイデア意見を反映した分かりやすい介護計画を作成している。毎月のカンファレンス及び日々の打ち合わせの中で十分に話し合いを行ない計画や訂正に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ご入居者一人ひとりの記録を電子化入力し、常に申し送り、周知を通してキャスト間で情報共有し把握する事で、日々実践し介護計画の見直しに努めるよう支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合った生活を出来るよう、勤務人数や勤務日や勤務時間を変更している。昔を思い出し、出来る事を本人の意思の基支援し、認知症のさらなる進行の治療としてニーズを引き出し企画計画、実行し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と地域との様々な接点を見出し地域の中でその人らしく生活出来るよう、地区会長、区会長、民生委員、消防との意見交換（運営推進会議・防災訓練）との意見交換の場を設定して安全で豊かな生活を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の意向を確認し協力医療機関や、かかりつけ医と連携支援、他医療機関への要望があれば同意の基キャスト付き添い支援をしている。受診結果情報は記録に反映しキャスト間で共有し後の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師が来て入居者の情報を伝え、適切な受診や看護を受けれるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者の情報を提供し医療がスムーズに行えるように努めている。また、病院関係者・家族と入院中も連携を取り退院支援にも早い段階から関わるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化や看取りに関する指針」を基に五福で対応できる支援について説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置のマニュアル作成中である。消防訓練の際にAEDの使い方の指導を受けた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し災害の避難誘導法や避難経路を話し合い行っている。地域住民として、民生委員や町内会長に、訓練を見て頂いた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴や排泄などは尊厳に配慮している。声のトーンや大きさ、内容など注意し対応している。居室などプライベート空間で過ごす時間も大切にしている。		
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望に理解を示し、入居者の気持ちを最優先にし、ライフスタイルや価値観を知った上で自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで生活しており、外出や買い物など出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着るものは入居者が自ら選ばれるか、職員が介入する際はどれを着たいか聞きながら入居者と一緒に選んでいる。アクセサリなどの装飾品もお好きな物を身に付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理・片付けまで一連の流れを入居者が行い、職員は見守る・又は一緒に行う体制をとっている。職員も同じテーブルを囲み会話をしながら食事をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はそれぞれ記録し、その時々に応じて声かけ・工夫をし支援している。状態の変化等は申し送りにて情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけや介助にて、その時に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を確認しトイレのサインを見をとさないように努め、誘導を行い、トイレでの排泄や排泄が自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューにて工夫したり、水分・食蜜繊維の多い食品を取り入れるように心掛けている。そして散歩や買い物での運動も心描けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の声掛けは行っているが昼に限らず夜でも入りたいと希望がある時は支援を行っている。入浴剤や季節に応じて楽しめる工夫も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に様子観察を行い、その日の状態に応じて声掛けし落ち着ける場所にて休んで頂いている。夜は一人ひとりにあわせた就寝時間にて寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度、一人ひとりに手渡しし服薬して頂いており変更があった際は、申し送りにて情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中で個人の楽しみを見つけ生活の中でも買い物やドライブ、季節に応じたレクレーションにて支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の生活の中で買い物や散歩等に出かけられるよう支援している。地域やその他行事など情報や希望があれば出かけられるよう努めている。外出の機会を多く持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より施設がお預かりしているおこずかいと、本人が手持ちのお金があり、いずれも買い物の際には本人の希望のものを購入され支払いをされる。できない方には職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話をお持ちの方は、自由に電話を掛けられる環境を作っている。電話をお持ちでない方にも要望があれば、施設の電話をおかししている。季節のおたよりを家族にお出ししたり、届いた手紙に返事を出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境で過ごせるように入居者、職員共に掃除に取り組んでいる。トイレは、芳香剤などで匂いをごまかさず、コマメに見回りをし、汚れを早急に取り除くように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士、他の階のフロアーへ遊びに行かれたり、他の方のお部屋に遊びに行かれたりと制限をせず、自由に過ごしていただいたり、3時のおやつには皆さんで集い談笑できるように職員が呼びかけ、孤独にならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人の思い入れの家具、使い慣れた食器やお箸などを持参され、お仏壇なども置かれている。家具の位置なども本人の希望の方位に頭を向け安心して休めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室は全てバリアフリーになっており、トイレ浴室には柵は無いが、間違えることなく使用され、また、職員も見守りと、声かけをコマメに行っている。また、歩行が不安定な方にも、少し低めの手すりにてつかまり歩行がしやすく工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない